



九月号



今月の十人十1

婆婆菱

鳳凰原岬

秋海棠

タオピカミクルティ

深山睦美

武井窓花

全美

彩結ゆあ

森屋たもん

きんかく

ただのたなか

発行人 鳳凰原岬

二〇二五年九月十日 発行

## 聖☆お兄さん 鳳凰原岬

そう言ってくれると助かりますけど言われなかったので死んじやいました  
成金が和牛の寿司を喰う金でおれはトイペをトリプルにした  
友達がほしいと書いたマッチングアプリのプロフ嘘くさくない？  
適切な贈り物については聖☆お兄さん18巻をご参照ください  
聖紋を腹に刻めば禁欲がうまくなったりするんだろうか  
自転車好きなところはどこまでも行けそうな気がするところですよ  
Blackを馬鹿正直に黒人と訳した人は誰なんだろう  
牛丼は値下げしないでいいんだよその分なんか減ってそうだし  
脇汗はえろいし額にかく汗は 背 徳 感 と思って見てる  
あくびって伝染ったふりでどさくさに紛れて匂い嗅げるから好き

## 晴れのちイチ・ニー・酸性雨 婆菱菱

夕暮れは夕暮れでしか無いことを思冬期ながら思い初めたり  
にっぽんに西洋背高泡立草群れて外来種なる烙印  
うつせみの一生懸命働けども吾に都庁は光らせられぬ  
自由とう痛み捨てれば畜生が愛玩動物となるおかしみよ  
そらにみつ大和言葉に愛充ちて《祖国と呼べ》ばアナフィラキシー  
ちにみつる三千年の共和国血と言えり地と言えりや となり国  
ペンギン逃げたるのちも神王の妻ヘラのごと不屈のあなた  
機械化の末路と思う犬笛で喉笛囁み千切りマシーン来ぬ  
大きすぎて己が足すら搔けずいる亜細亜超大国のみどり児  
氷河期と聞けばいつからか思い出す凍死せしマンモスの展示

## 顔立ちに舞う タオピカミクルティ

偽りの歯が増えるたび正しさが遠のいてゆくような気がして  
たましいは言葉にすると嘘っぽい紙の上のみにて光る夢  
やわらかい唇のひとは性格が頑なという個人的統計  
怒りにも蜜をひと匙どんな顔をしていたって月の眩しさのひと  
荒事と書いてはなのと読めるらしあなたのはなの顔立ちに舞う  
聞き飽きた蝶形骨の話とかやめて背骨の愛を語ろう  
いつか遺跡が発掘されて抱き合った形で発見される遺骨に  
人生はすべて生前となること死んでようやくとまる消しカス  
目の中にあなたを飼ってあげられる午後12時から午前9時半  
歯触りがあなたに似てる豚肉をパックに入れる食肉部門

## 剪定式 秋海棠

さくらばな咲いていないと誰も見に来てはくれないいろの花びら  
飾るのに邪魔な葉っぱをもぐように天使の羽根は二枚でいいや  
風花は花にあら無い徒花は実を付けぬ花 冬のくるぶし  
剪定は選んで切って拾うこと梅枝落とせば冬のはじまり  
本当は花の名前も知らなくてただ花とだけ思い眺めた  
苦しみを腕ごと床に落とせたら天使の羽根なる名のランドセル  
実を食べるのが上手ければイブとなり暗い夜道を恐れなくては  
人と会うために履くときいつもよりきつめに締める靴紐のエックス  
血統のいらぬ枝も払いいたい真っ直ぐな系統樹であれば  
秋が来る気配ひのもと炎上すそのくれないの葉を踏みしめて

ある画家、宇宙と話すひと 武井窓花

妖怪が出たっていうよみずうみに恥ずかしかったのかもしれないね  
葉はすでに眠り支度とあとすこしやり残したことがあるらしい  
ある画家がむかしむかしにここへ来て見かけたという銀色の鹿  
コンパスは捨ててしまっただけからは宇宙と話すひとになりました  
光ったいろいろなものが寄ってきてけがをするからそっと飛びなさい  
筆で描くわすれなぐさが野に下りて泣くための四季とはと講義する  
犬の毛を上手に撫でるひとなので王様にもきつとされるでしょう  
猫の喉を上手にならすひとだからきつと立派な汽車に乗るでしょう  
高原で羊飼いらが笛を吹く明け方そちらへ行きますからね  
夜の空が少し疲れたよと言って彼は地球をかすかにずらす

ワンピース ネタバレ 深山睦美

こんにちはラーメンつけめんばくお花参政党の支持率が二位  
おままごと もう揃わないルービックキューブみたいな顔をしたまま  
そのビー玉が転がることをやめる日が夏ならいいね 夢の坂道  
ワンピース ネタバレ で検索するよ明日銃を手取る僕たちは  
レーズンをはじって捨てた指先にレーズンパンの絶望の色  
ありがとう生きてる意味を思い出した 高輪ゲートウェイ駅 潰す  
ちかわの誰かを通して君を見ただけ揺れている鞆の端で  
脳内でゴジラのテーマ流れ出す歌詞の全てを自殺に変えて  
偽ペットショップにならぶ偽ペット抱きしめるたび迫る潮騒  
今ここで全部やめてもいいんだよ建設中のビル背伸びして

少年たち 彩結ゆあ

ハンモック耐えられるだろうか僕たちのレモンピールチョコレートサマー  
流星群あの丘へ行こう僕たちは今日から死ぬまで春纏う青  
あつちからこちまでと決め空を無理やり絵にする人がたくさん  
行かないで追いかけて 空 何も知らないふりが上手のため息  
覚えてたのペトリコールという響き 先延ばしした白紙の日記  
百年後の世界が今よりキモくても関係ないと思う側の自我  
クリームのないメロンソーダを検査してたましいのこと話したい僕と  
後悔を海に沈めるしずかなる海で豊かに暮らしていてね  
なつかしさ辿っていけばみんな他人 花を辿っていけば宇宙だ  
誇らしく誇らしく誇らしくひかれキューティクルは世界を正す

たましいの骨 全美

手土産にあんぱん二つ私の分と母の分坂道下る  
のんびりと忘れる人の手を握り名前を三度耳元で言う  
介護付老人ホームに住む母の部屋は三階北側にある  
ほんとうは帰りたいのよと囁いてヘルパーさんへの気遣い忘れぬ  
ミサイルが頭の上を過ぎてゆく朝のコーヒーがぬるくなってゆく  
痛みと生きる人の痛みを知れというのは無理な話で  
戦前と戦後という乱暴な分け方の住む星がまだ青い  
たましいの抜けきった花は骨になりそれが紫陽花とわかればこそ

## 誘えなかった きんかく

コンビニは真夏の清涼飲料水浸りすぎたら身体に悪い  
お囃子のどこがサビだかわからないみたいに消えた台風ノ号  
人間としては未熟な僕ですがセミなら長寿なだけのバケモノ  
光ったら負けのゲームをする夏と花火と君の魂の負け  
いつそ目を潰してくれば楽なのに日光が成長を促す  
もうずっと夏かもしれない、夏が嫌い、海がぬるくて泣けそうにない  
抱きしめてもらわなくてもいいように帯紐もつと締めてください  
玄關をあけたら進むしかなくて好きになるしかない夏祭り  
散った恋を丸めて火薬にすることの永久機関で狂ってしまおう  
花火より綺麗だによって妄想に浸っていたらふやけたまぶた

## 回顧展 森屋たもん

アートって気分でもない人生にそれでも行く展覧会がある  
「はじめに」はしっかり読んだ方がいい（結果的に眼の準備運動になる）  
二百年前のテレビンの香りに満たされてゆく猛暑日の午後  
撮影可の展覧会が増えているけど記念撮影は違くない？  
撮影の為にスマホを出したあと流れて開いてしまう×  
中庸を極めてどこの常設展にもいる画家が二・三名いる  
駆け足で回る回顧展の出口付近に立っている作家の死  
避けられない運命が僕の前にあるお土産コーナーもそのひとつ

### X account

婆菱菱	@2000misaki0323
鳳凰原岬	@2000misaki0323
秋海棠	@2000misaki0323
タオピカミクルティ	@2000misaki0323
深山睦美	@57577_77575
武井窓花	@tanka_madoka
全美	@ZENMIN15
彩結ゆあ	@iromusubi_yua
森屋たもん	@monsontanka
きんかく	@kingkaku_tanka_
ただのたなか	@Shironopa_ka_

## ドロップアウト・サマー ただのたなか

自販機の下に転がる十円玉おいかけずにただ黙って見ていた  
コンビニの一角どれも似た色の弁当をただ取っては戻し  
鳴り続ける誰かのスマホ駅の隅ホームにひとつ傘だけが立つ  
「この残高だけが減っていくこのままどこかに終点がほしい  
熱帯夜冷蔵庫から水を出すテレビもつけず音も要らない  
冷房の効きすぎている部屋の中窓の外では夏をしていた  
古本屋買わずに戻す背表紙に知らない午後が少しだけ映る  
コンビニの明かりに照らす指の骨弁当を持つだけのかたちして  
窓際で伸びた観葉植物だけ生き延びているこのオフィスでも  
カーテンの隙間を抜ける夕立がきれいすぎては何も言えない

